



2019年6月7日
三重県
松阪市
公益財団法人イオン環境財団

地域との連携を深める森林づくり

6月15日(土)第2回「松阪市植樹」を開催

ボランティア600名の皆さまと4,000本の木を植えます

三重県(知事 鈴木英敬)、松阪市(市長 竹上真人)及び公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役)は、6月15日に第2回「松阪市植樹」を実施します。

植樹地となる松阪市飯南町向粥見地区は、松阪市中央部に位置し、市内を流れる櫛田川流域には、アマゴ・アユなどの清流魚やギフチョウ・オオムラサキなどの希少な生物が息づく自然豊かな地域です。また、飯南町の7割は森林が占め、古くから林業が盛んに行われています。

本植樹は、昨年4月に三重県、松阪市とイオン環境財団の三者が締結した「森林保全協定※」に基づき実施するものです。本協定では、3年計画で人工林のスギが伐採された跡地に地域に自生する樹種を植樹し、水を育む自然豊かな森を再生することを目指しています。

第2回となる今回は、600名のボランティアの皆さまと、ヤマツツジやくヌギなど12種4,000本の植樹を行います。これにより、昨年分と合わせ累計植樹本数は9,000本となります。

これからも三者は、豊かな自然と人々の暮らしを守るため、植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時： 2019年6月15日(土) 9:30-11:30
場 所： 三重県松阪市飯南町向粥見地内
植樹面積： 1.5ha
参加人数： 600名
植樹本数： 4,000本
樹 種： ヤマツツジ・クヌギ・コナラ・ヤマザクラなど地域に自生する樹種12種
主 催： 三重県・松阪市・公益財団法人イオン環境財団
協 力： 松阪飯南森林組合
イオンリテール株式会社・マックスバリュ中部株式会社・イオンビッグ株式会社
出席者： 三重県 副知事 渡邊 信一郎
(予定) 松 阪 市 市長 竹上 真人
松阪飯南森林組合 代表理事組合長 上田 和久
公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田 卓也
イオンリテール株式会社 常務執行役員東海加パニ支社長 北 佳史
マックスバリュ中部株式会社 代表取締役社長 鈴木 芳知
イオンビッグ株式会社 代表取締役社長 宮崎 剛

※「森林保全協定」の内容

三重県・松阪市の協力のもと、イオン環境財団が実施する植樹活動により、森林環境の保全に貢献するとともに、地域社会との交流を図り、地域の発展に寄与する。

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、世界各地での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は、1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,193万本（2019年2月現在）を超えています。

《公益財団法人イオン環境財団ホームページ：<http://www.aeon.info/ef/>》

■イオンの森づくり

行政と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的として、世界各地で植樹を行っています。本年は、北海道南富良野町、宮城県石巻市、宮崎県綾町、千葉県九十九里浜地区、インドネシア ジャカルタ、マレーシア ビドゥ、ベトナム ハノイにおいて植樹を行います。



2018年中国北京市密雲



2018年三重県松阪市

【三重県における当財団の植樹活動について】

2005年～2009年 「宮川村植樹」

三重県 宮川村（現大台町）では、林業の担い手不足のため、手入れが行き届かなくなった放置森林に、広葉樹との混交林づくりを行っていました。2004年9月の台風21号で土石流が相次ぎ大きな被害を受けたことから、荒れた林を、土砂崩れ防止、水源涵養、二酸化炭素吸収という森林本来の機能を蘇らせるという趣旨に賛同し、2005年から5年計画で 宮川村（現大台町）、みやがわ森選組とともにヤマモモ、クヌギアキグミ、ウバメガシ等を植樹しました。



2008年宮川村

2006年～2008年 「四日市水沢・桜地区植樹」

2004年4月に四日市水沢地区を舞台に「2004年アジア自転車競技選手権日本大会」が開催され、翌年から「四日市サイクル・スポーツフェスティバル」が継続して実施されています。これを機に同市からの要請を受け、レースコース沿いに桜やもみじを3年計画で約470本植樹しました。

2012年～2014年 「紀北町植樹」

三重県紀北町海山区は、世界遺産である熊野古道が通る山、川、海と豊かな自然を有する地域です。高速道路の建設に伴い町有林等が伐採され、同時に住宅地の裏山の松林が枯れ、整備が急がれる場所でもありました。これらの場所に、本来土地に自生する樹種を植樹することで、土砂崩れなどの災害を防ぐ森の再生を目指し15,000本植樹しました。



紀北町 記念碑

■助 成

[環境活動助成]

1991年より28年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、世界各地において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行い、累計では2,948件、総額26億9,200万円となりました。2018年度は、活動分野を「植樹」、「里地里山里海の保全・河川の浄化」、「環境教育」、「野生生物・絶滅危惧生物の保護」の4つに助成活動を改編して実施しました。本年度は、6月1日より8月20日まで募集を実施しています。

■環境教育

[アジア学生交流環境フォーラム]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム」を実施しています。本年は、10カ国合計80名の学生が参加し、8月2日～6日の期間で、カンボジアのプノンペンとシエムリアップで「持続可能な平和構築」をテーマに実施します。



第7回開講式（マラヤ大学）

■パートナーシップ

[生物多様性アワード]

国際連合環境計画 生物多様性条約事務局と連携し、生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設。隔年で開催し、顕著な環境活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2018年度は、第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施しました。2019年度は第6回「生物多様性日本アワード（国内賞）」を行います。



第5回「生物多様性みどり賞」授賞式

[日本ユネスコエコパークネットワークとの連携協定]

2017年8月7日、日本ユネスコエコパークネットワークと当財団は、「生態系の保全」と「持続可能な利活用」の調和を目指し、日本国内のユネスコエコパーク（生物圏保存地域）における3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）に関し、国内初となる連携協定を締結しました。「生態系の保護・保全のみならず自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に賛同、連携し、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組んでいます。

[イオン環境セミナー]

早稲田大学との連携のもと、国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値を共有できる教育を目的とするプログラム「イオン環境セミナー」を2016年より実施しています。2018年度は、9月にインドネシアのインドネシア大学にて開催します。本年はタイのチュラロンコン大学にて実施します。



イオン環境セミナー（インドネシア大学）

[イオン未来の地球フォーラム]

東京大学、ならびにフューチャー・アースと連携し、地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行策を議論し、講演と対話型パネルディスカッションを通じて理解を深め、成果をまとめる「イオン 未来の地球フォーラム」を開催しています。第4回は、2020年2月1日に東京大学安田講堂にて開催予定です。



第3回「イオン 未来の地球フォーラム」（東京大学）